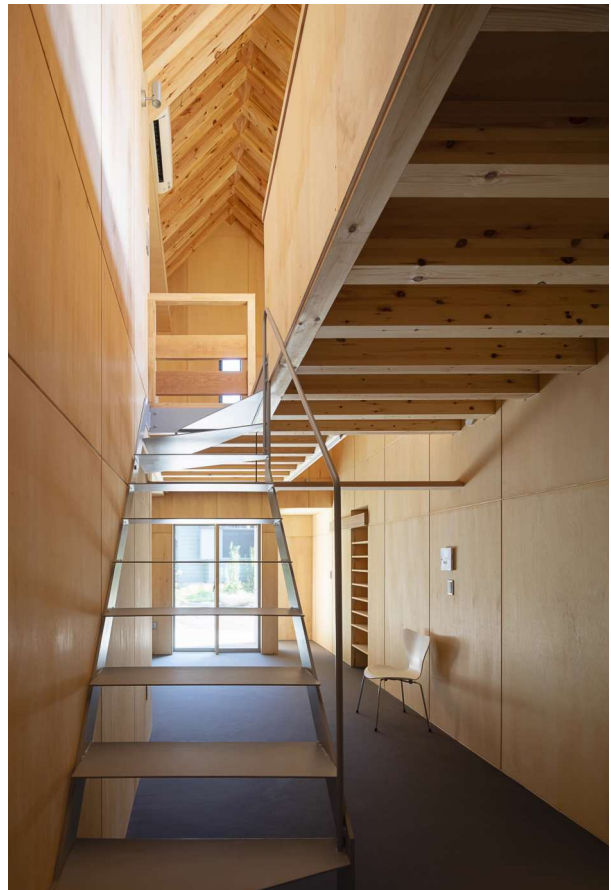
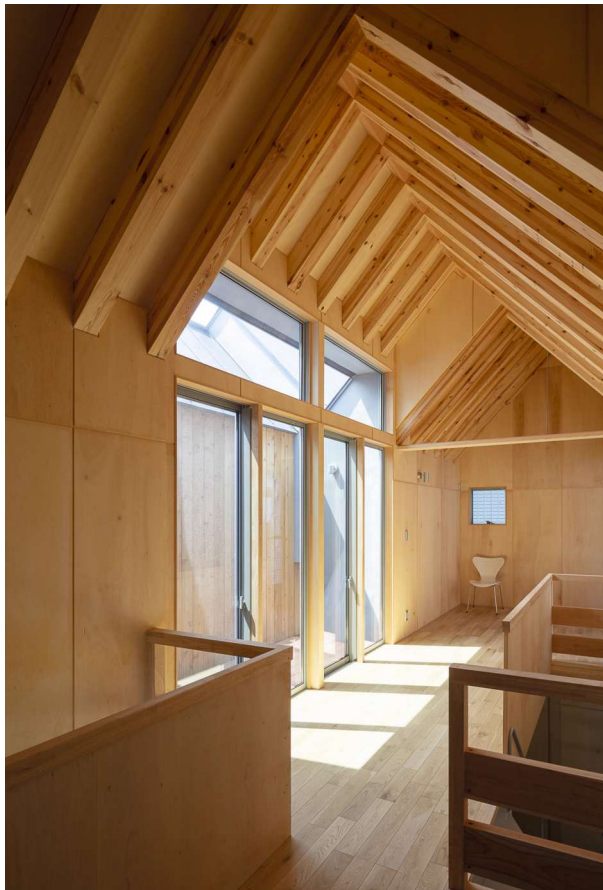


# 御成ふくろ小路

"集まり"と"連なり"から生まれる感覚と間隔の共有空間

 GOOD DESIGN AWARDS 2019

主要用途 : 長屋  
構造 : 木造在来工法  
階数 : 地上2階  
建築面積 : 90.96㎡  
延床面積 : 158.30㎡



## 路地、外部空間の設計とエリアデザイン・コードの計画

場所は鎌倉御成町。

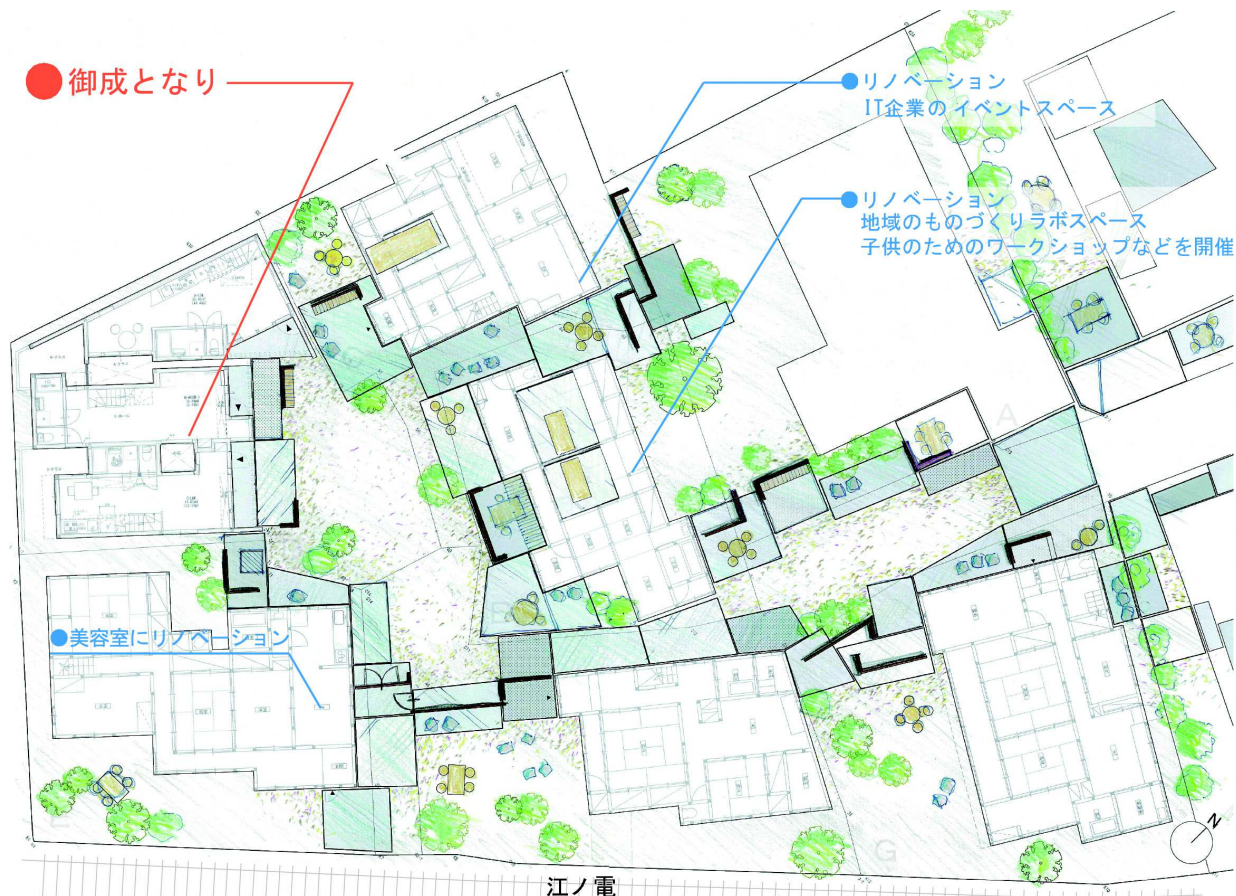
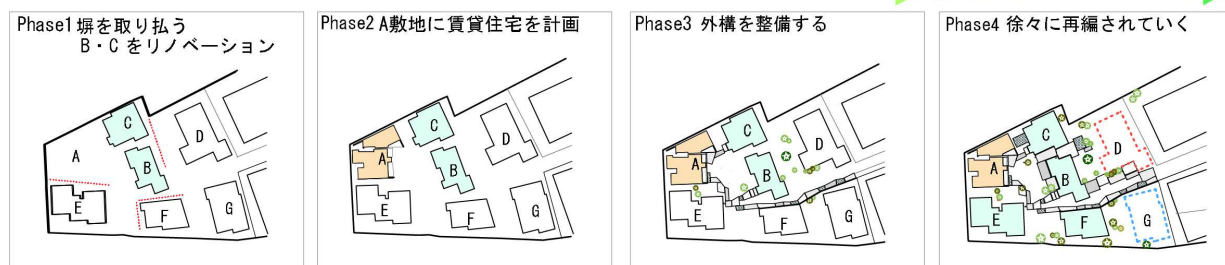
ひとつならりの一群の土地があり、そこに築約80年の民家が6棟と1つの空地が存在していた。時折にあわせ、新築や改修どちらであっても、住戸間の垣根を取払い、飛び石を模したアプローチで繋ぎつつ、それぞれの住戸間の隙間を活かし、感覚と間隔の共有につながるオープンスペースのありかたを指向した。隣接する民家は、リノベーションを行い、多様な活動と地域の交流を育むスペースとして活用。このエリアの最も奥にあった空地に新築のプロジェクト"御成となり"が立ち上がった。

各棟や住戸の間に生じる空隙を室の延長とし、個々の空間に取込む。街などにおいて、建築や敷地の周縁には常に隙間が生じる。それは多くの場合隣人や隣家との間の余白となり、この扱いがその場の性質を定める。この隙間を各室内スペースからの延長空間として活用している。

3住戸の木造賃貸住宅計画であるが、1階はコミュニティに開き、2階は閉じる。かつての日本の町家が持っていた風景のひとつである、職住一体の在り方も十分に受け入れることのできるように、住まい以外にも多様に活用できるスペースの提供を意図している。

### Time Line

▼NOW

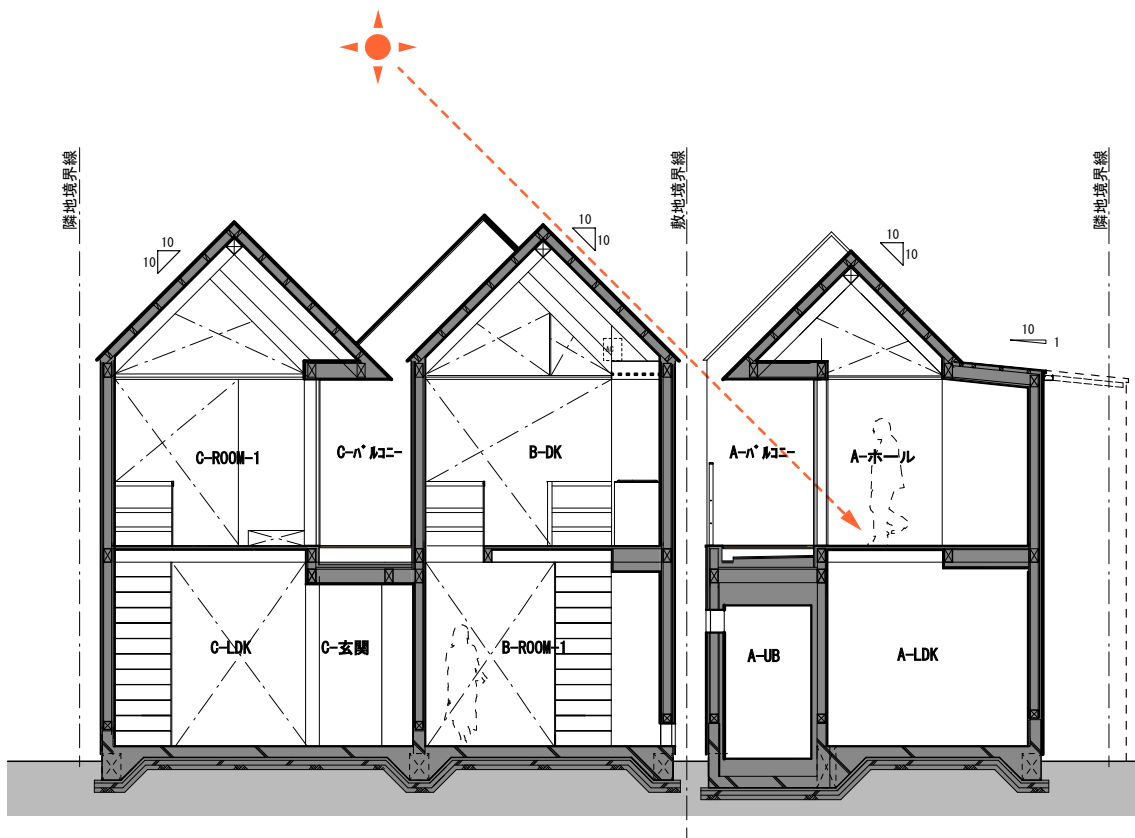


江ノ電









SECTION

Collaboration 構造:桑子建築設計事務所、設備:Comodo設備計画、施工:タツミプランニング、Photo:大沢誠一

©河野有悟建築計画室